

ニホンジカに採食されていたハグロケバエの幼虫

金城芳典*

Larvae of March fly *Bibio tenebrosus* eaten by Sika deer *Cervus nippon*

KANESHIRO Yoshinori*

Key words: March fly, *Bibio tenebrosus*, Sika deer, *Cervus Nippon*, stomach contents

ニホンジカ *Cervus nippon* は草食獣であり、木の葉や草本類など植物を主要な食物としている(南, 1996). 基本的にニホンジカが動物を採食することはなく、食性解析の際に動物質が出現する場合は、植物の採食時の誤食やサンプル回収時の混入などの原因が考えられる。これらの場合でも動物質の出現量は極端に少ないのが普通である。しかし、本研究において、高知県室戸市羽根町で2012年11月—12月に捕獲された4頭のニホンジカの胃内容物を分析したところ、ハエ目ケバエ科のハグロケバエ *Bibio tenebrosus* 幼虫が誤食や混入とは考えられないほどの高い割合で出現したので報告する。

ハグロケバエ幼虫(図1)は、4頭中3頭の胃内容物で確認された。ポイント柵法(Charmrad and Box, 1964; Leader-Williams *et al.*, 1981)によって求めた出現率を表1に示す。幼虫の出現率は、それぞれ2.7%, 3.3%および11.0%であった。同時に出現した食物は、グラミノイドおよび堅果が高い割合を占めていた。ハグロケバエの幼虫は数十—2000個体ほどからなるコロニーを形成し、互いにかからまり合うように群れ、落葉層と土壤層の間に生息していると言われている(岡, 2005)。また、成虫は4—5月に羽化し、幼虫期は300日程度である(岡, 2005)。これらのことから、ニホンジカが地表に落下した堅果を採食した際、同



図1. 胃から出現したハグロケバエ。
メッシュサイズは5 mm.

時に土壤中でコロニーをつくっていたハグロケバエの幼虫も採食した可能性が考えられる。

ケバエ類がニホンジカの胃内容物から出現した例は、ネイチャー企画(2008)による愛媛県からの報告しかなく、ここでは植物の採食時の誤食と判断されている。食性解析が行われたニホンジカは、今回同様、捕獲時期が11月—1月初旬にかけてであり、同時に堅果類が高い割合で出現していた。このことから愛媛県の事例でも、ニホンジカが地表に落下した堅果を採食した際、落葉層と土壤層の間に生息しているケバエ類を採食していた可能性が考えられる。

*特定非営利活動法人 四国自然史科学研究センター

〒785-0023 高知県須崎市下分乙470-1

Shikoku Institute of Natural History, 470-1 Shimobun otsu, Susaki 785-0023, Japan

表1. ハグロケバエが出現したニホンジカの食性解析結果 (%)

性別	♂	♂	♂
成・幼	成獣	成獣	成獣
捕獲日	11月16日	11月17日	12月25日
グラミノイド	24.6	18.0	83.7
非同化部	9.0	4.8	6.1
ササ	15.6	13.3	76.6
ササ以外	0.0	0.0	1.0
木本	0.0	1.3	3.6
常緑広葉樹	0.0	1.3	3.6
落葉広葉樹	0.0	0.0	0.0
針葉樹	0.0	0.0	0.0
枯葉	0.0	0.0	0.0
樹枝	0.0	0.0	0.0
樹皮	0.0	0.0	0.0
種実	64.4	76.3	10.0
果実	0.0	0.0	0.0
種子	0.0	0.0	0.0
堅果	64.4	76.3	10.0
その他	11.0	4.5	2.7
草本	0.0	0.0	0.0
シダ	0.0	1.3	0.0
昆虫	11.0	3.3	2.7
不明	0.0	0.0	0.0

その他の哺乳類がケバエ類を採食していた事例は、10月5日に捕獲されたツキノワグマの胃内容物から出現した記録（泉山ほか，2013）のみである。ツキノワグマは雑食性なのでハグロケバエを自ら採食したとも考えられるが、草食獣であるニホンジカが、ケバエ類を自ら採食するのかどうか、今後の報告が待たれる。

謝 辞

本結果は高知県委託「平成24年度高知県シカ生息状況調査業務」により得られた。高知県鳥獣対策課には本報告を発表するに際し、ご許可いただいた。高知昆虫研究会の別府隆守氏には本種を同定いただいた。株式会社東洋電化テクノリサーチの美濃厚志氏には同定に際し、ご助力いただいた。また、校閲者の皆様には本報告についてご助言をいただいた。ここに記し、心よりお礼申し上げる。

引用文献

- Charmrad, A. D. and T. W. Box. 1964. A point frame for sampling rumen contents. *J. Wildlife Manage.*, 28: 473-477.
- 泉山茂之・中下留美子・岸元良輔・鈴木彌生子・林 秀剛・瀧井暁子. 2013. 長野市街地ツキノワグマ出没個体は人里に依存していたか？—安定同位体比分析による食性解析—。信州大学農学部 AFC 報告, 11: 25-28.
- Leader-Williams, N., T. A. Scott and R. M. Pratt. 1981. Forage selection by introduced reindeer on South Georgia, and its consequences for the flora. *J. Appl. Ecol.*, 18: 83-106.
- 南 正人. 1996. ニホンジカ（伊沢絃生・粕谷俊雄・川道武男，編：日本動物大百科 2 哺乳類 II）pp. 112-116. 平凡社，東京.
- ネイチャー企画. 2008. 愛媛県ニホンジカ適正管理計画策定基礎調査事業調査報告書. 愛媛県，愛媛. 91pp.
- 岡 俊彦（編）. 2005. 日本産幼虫図鑑. 学習研究社，東京. 336pp.

（原稿受理：2014年5月12日）